

「新春！書道アートの世界 ～古代文字で書き初め～」

1 趣 旨

- ・日本の伝統文化の一つである「書」活動について、青少年の文化体験活動の裾野を広げる。
- ・小学生を対象に、書き初めや日本の伝統文化に触れる機会を提供する。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和4年1月9日(日) 【日帰り開催】
- (2) 会 場 島根県立男女共同参画センター あすてらす
- (3) 講 師 虎舟塾 塾長 古代文字書家／アーティスト 福島美生 虎舟 氏
- (4) 共 催 大田市教育委員会
- (5) 協 力 有限会社 平和亭 代表取締役 田中 伸哉 氏
- (6) 対 象 小学校3～6年生
- (7) 参加者 5名 ※募集20名
- (8) 日程・研修内容

9:30	10:00	10:10～12:30	12:30～14:00	14:00～15:00	15:10	15:30
受付・検温	はじめの会	【活動】 ①書道パフォーマンスを 見よう！ 古代文字書家 福島美生 虎舟 氏 を講師に迎え、古代文字について教えていただき、書道パフォーマンスを鑑賞しましょう。 ②古代文字を書いてみよう！ 古代文字の書き方を教えていただきながら、作品を書いて(描いて)みましょう。	【昼食・休憩】 郷土料理を楽しもう！ 島根の郷土料理についてのお話を聞き、郷土料理(お弁当)を味わおう。 協力: 有限会社 平和亭 代表取締役 田中 伸哉 氏	【活動】 ③オリジナル 書き初め風をつくろう！ ～世界に一つだけの風～ 古代文字アートでオリジナルの飾り風に仕上げましょう。	おわりの会	解散

3 事業の内容

(1) プログラムデザインと企画のポイント

本事業は、「独立行政法人国立青少年教育振興機構『全国一斉書き初め大会』試行事業」として、また、当所がある島根県大田市の大田市教育委員会との共催で、「おおだ教育月間」イベントとして開催した。

地元、島根県出身の古代文字書家／アーティストである福島美生 虎舟氏を講師に迎え、古代文字の魅力や歴史、文字の成り立ち等についての話や古代文字の書き方の指導をしていただいた。

参加者には、福島先生に教えていただいた古代文字を大きな和紙に書き、半紙に練習した後、色紙と書き初め風に清書を書く体験をしてもらった。書き初め風には、文字を書くだけでなく、千代紙やシールなどで好きなように飾り付けられるようにした。

昼食は、大田市内の飲食店「平和亭」の田中 伸哉氏から島根の郷土料理や正月料理についての説明をしていただき、郷土料理や正月料理などが入ったお弁当を食べる時間とした。

書き初めとお弁当の両方で、お正月行事や日本の文化を体験できるように計画した。

(2) 運営のポイント

○日帰り開催のため、参加者が参加しやすいよう、大田市中心部にある公共施設を会場とした。

○会場設営にあたって、次のことを行った。

- ・大きな和紙に書く場所の床にはブルーシート、机には新聞紙を敷いて養生した。
- ・手洗い場の数が少ないため、筆洗い用のバケツを用意した。

○新型コロナウイルス感染症の予防のため、次のことを行った。

- ・研修室の換気や受付場所での検温と消毒液の設置の徹底。
- ・手洗いやマスク着用の徹底。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	80	20	0	0
プログラム	80	20	0	0
職員の対応	80	20	0	0

(2) 参加者の声

- ・初めて会った同級生と少し仲良くなったし、新しい漢字を書いているようで楽しかった。すべての象形文字には昔のたくさんの様子が書き込まれていておもしろいと思った。誰かに伝えたい。「昔の漢字」が書けてうれしかった。

- ・家でも書けそうだから、家でもまたやりたいです。また体験したいです。
- ・最初は「なにを書いているんだろう？」と思っていましたが、自分で書いてみると、だんだん分かってきました。「喜」は少し難しかったけど、楽しく書けたので良かったです。大きな紙にもう一度書きたかったです。
- ・最後の凧はとても楽しかったので、またやる時にそうしてほしいです。
- ・字を書くのも弁当を食べるのもとても楽しかったです。



完成した作品（大きな和紙）

5 成果と課題

《成果》

- ・参加者が少人数になってしまったが、参加者全員がじっくりと先生の指導を受けることができた。
- ・古代文字に初めて出会うだろう参加者が、習った古代文字をしっかりと練習してから清書に臨めるよう、練習用の半紙を多めに準備した。実際に、納得いくまで練習し、休憩時間にも練習する参加者の姿が見られた。
- ・初めての古代文字に戸惑っている様子だった参加者も、自由な筆使いで書けることや強弱をつけて筆を走らせる書き方など、古代文字に触れ、書いてみて、その魅力に引き込まれていき、次第に夢中で書いていた。昼休憩や事業終了後には、「もっと書きたい」「他の字も書いてみたくなった」と話していた。参加者が初めてのもの（古代文字）に触れる機会と、すでに知っていること（書道）の新たな魅力を知る機会を提供することができた。

《課題》

- ・小学生に限らず、「古代文字」を知らない、書いたことがない人は多い。そこで、チラシに福島先生が書かれた古代文字を掲載し、大田市内の小学校へチラシを配布したが、年明けすぐで新学期が始まる直前の事業だったこともあるのか、また、新型コロナウイルス感染者の増加の影響もあり、参加申込者が定員に達せず、参加者を集めるにはより広い会場確保や感染防止対策周知等の工夫が必要だと感じた。
- ・今回の会場よりも広い会場を設定する必要がある。手洗い場が少ないことから、筆洗い用のバケツやその下に敷く新聞、ブルーシートを準備したが、今回は参加者が5名だったため、手洗い場で洗っても支障はなかった。しかし、参加人数が増えれば多くの筆洗い用バケツとスペースが必要となるため、さらに広い会場を確保し、筆を洗う場所を3～4か所設置できるようにする必要がある。



福島先生による
書道パフォーマンス



古代文字を書く参加者



田中氏による
郷土料理と正月料理のお話



完成した作品
(書き初め凧・色紙)

(担当：企画指導専門職 兼 事業推進係長 上 正美)